

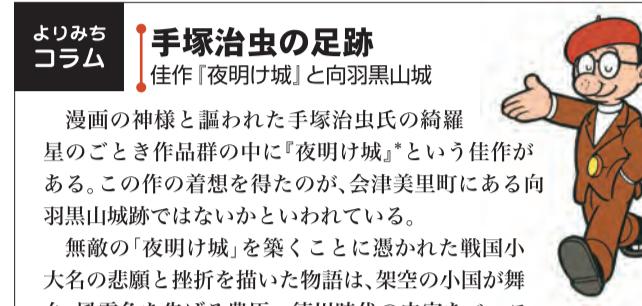


### さくだ 左下り観音堂

左下り観音堂は建立以来1000年以上と伝えられています。山の中腹にある大岩を切り開いて建てられた見事な三層閣の懸け造りのお堂です。会津三十三観音第21番所になっており、別名「くびなし観音」とも言われ、県の重要文化財に指定されています。

#### data

会津美里町大石字東左り173  
町道23号より山道を徒歩30分



### よりみち コラム

#### 手塚治虫の足跡

佳作『夜明け城』と向羽黒山城

漫畫の神様と謳われた手塚治虫氏の綺羅星のごとき作品群の中に『夜明け城』\*という佳作がある。この作の着想を得たのが、会津美里町にある向羽黒山城跡ではないかといわれている。

無敵の『夜明け城』を築くことに憑かれた戦国小大名の悲願と挫折を描いた物語は、架空の小国が舞台。風雲急を告げる豊臣→徳川時代の史実をベースに綴られており、慶長6年の向羽黒山城の破城と時期を同じく『夜明け城』も城主と命運を共にしている。

向羽黒山城は日本最大級、阿賀川を足元に断崖絶壁の岩山が聳え立つ山城は天然の要害だ。事実、蘆名以降会津を支配した伊達・蒲生・上杉がそれぞれに入部してまもなく改修工事を行っていることからも重要視されていたことがよく分かる。

手塚氏が会津を訪れ、東山温泉に宿泊したのは昭和34年連載開始の5ヶ月ほど前。当時、氏のアシスタントをしていた会津出身の絵本作家・平田昭吾氏の談によると、蘆名一族に仕えた重臣を祖にする平田氏が、折に触れて向羽黒山城の話をしていたことがきっかけで手塚氏が会津に興味を抱いたのでは、と語っている。

来若した手塚氏が真っ先に向かったのは、「奥州位置」で会津入りした豊臣秀吉が降り立ったという背炙山の「関白亭」。会津盆地を一望にするこの場所から急峻な向羽黒山城跡を望み、氏がどのような構想を抱いたのか非常に興味は尽きない。

(NPO法人会津マンガ文化研究会)

\*「夜明け城」講談社刊・手塚治虫漫画全集MT50

©手塚プロダクション



### よりみち コラム

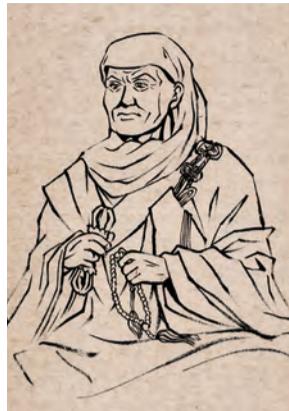
#### 天海大僧正と蘆名氏

徳川3代の名宰相は会津美里町生まれ

天海大僧正誕生の地は、会津美里町の高田地区にあります。父は高田の土郷舟木氏で、母は蘆名氏とされています。蘆名盛氏時代、天海は黒川城(後の鶴ヶ城)の稲荷曲輪(丸)の別当職の任にあり盛氏の信任は厚いものでした。蘆名氏が滅び、蘆名主従が落武者として常陸に逃れるとき、天海は甲冑に身を包み、行く先々で20代義広を護衛し、落ち延びたと伝わっています。

後に徳川家康に見出された天海は、徳川將軍家3代まで重用され、数々の輝かしい事績を残しました。

死後、朝廷より「慈眼大師」と諡号が贈されました。



### 窯の美里 いわたて

城主の館「旅館」から名付けられました。1Fが会津本郷陶器会館で、会津本郷焼組合の13窯元の共販所となっており、焼物の他、物産品も販売しています。

#### data

①F 営業時間／9:00~17:00  
定休日／毎週水曜日  
tel.0242-56-3007

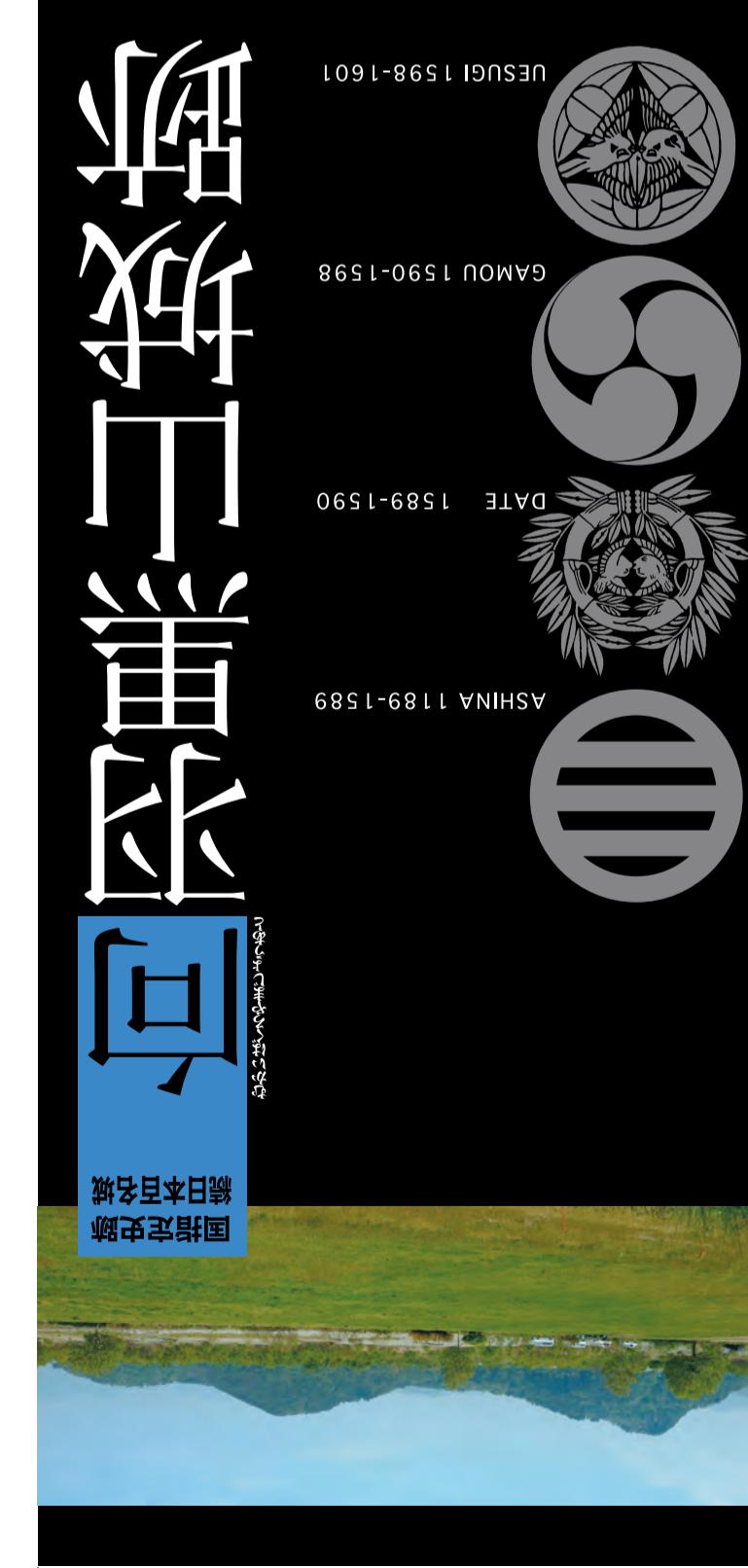


### 本郷温泉 湯陶里

白鳳山公園の山裾にある河畔の日帰り温泉施設。食事処や休憩室も完備され、露天風呂からは会津磐梯山が一望でき、無料の足湯も好評です。

#### data

営業時間／9:00~21:00  
※最終受付20:30まで  
定休日／毎週水曜(祝日の場合は翌日)、年始  
会津美里町字六日町甲4106-1 tel.0242-56-4364





■葦名の時代

蘆名氏は鎌倉期の名門三浦氏の一族で、相模国(神奈川県)衣笠城主三浦大介義明の子、佐原十郎左衛門尉義連がその祖とされます。義連は源頼朝の側近として仕え「奥州藤原氏征伐」等の軍功により文治5年(1189)に会津北部を賜ったと伝わります。

その子盛連が相州芦名郷に住して蘆名氏を称したと言われますか。四男の三代光盛が宝治合戦(1247)以降に、その芦名郷を正式にえられてから蘆名氏を名乗ったのが始まりとも言われております。

会津太守蘆名氏の本城は向羽黒山城 蘆名氏は当初鎌倉幕府重鎮として活躍していましたが、徐々に恩給の地である陸奥国・津に勢力を扶植して拡大を図り、15～16世紀頃には奥州において最大の勢力を持つようになりました。

この蘆名氏の全盛期を築いたのが中興の英主16代盛氏です。

盛氏は家督を継承すると、商人司の築田氏を重用し流通支配強化を計るなど富国強兵の政策を基に、巧みな外交戦術と類希なる合戦の才能から、めきめきと英将の頭角を現し、現在の新潟県南部から福島県のほぼ全土を掌握し100万石の会津太守と称せられました。

永禄4年(1561)から永禄11年(1568)までの、あしかけ8年の月を費やし、会津地方の要衝の地(会津美里町本郷地区)に、会津守蘆名氏の本城として巨大な向羽里川城(岩崎城)を築城します。

盛氏は、幼年であった嫡男の17代盛興を黒川(後の鶴ヶ城)城主とし、自分は隠居の身として「止止齋」を名乗り向羽黒山城に築城中より居住していましたが、実際は大御所として全権を握り采配を振るっていました。向羽黒山城の蘆名氏本城説の所以はここあります。

盛氏は永禄年間に甲斐の武田信玄と対等の盟約を結び、最大の激戦であった第4次「川中島の合戦」前後には、信玄の要請により後の上杉領に派兵して度々の侵略を計っています。信玄は南奥

この時期、南進策を取り中央に進出を計りたい盛氏は、北進策

この時期、南進策を取った大に進山を計った益氏は、北進東取り奥州制覇をもくろむ常陸国(茨城県)の雄、佐竹義重と県南において度重なる合戦を行っており、この佐竹氏を牽制する意味合いら小田原の北条氏とも同等の同盟関係を結んでいました。また隣の米沢において南進策を計る伊達氏とも微妙な関係にありました。

戦国時代という権謀術数が飛びこむ時代性の中で、盛氏は当最強と謳われた戦国大名との駆け引きにも劣らず、近隣においても比類無きその強さから「会津に蘆名あり」と天下にその名を轟せておりました。

伊達政宗は蘆名盛氏と戦わなかったことが幸い 盛氏が天正年(1580)に没して約9年後、伊達政宗により磐梯山麓の「磨上合戦」において大敗を喫した蘆名氏は、400年を誇った会津支配終止符を打たれてしまいます。

蘆名氏に勝利し奥州の霸者となった伊達政宗ですが、「蘆名盛と戦わなかつたことが幸いであつた」と言われており、盛氏の偉

Digitized by srujanika@gmail.com

A decorative horizontal border at the bottom of the page featuring a repeating pattern of stylized white flowers and leaves on a light beige background.

## 国指定史跡 向羽黒山城跡整備資

# 向羽黒ギャラリー

中世の会津や向羽黒山城に関する資料を中心に集めた資料館で、現在、資料の電子化を進めています。発調査出土品パネルの展示ほか、750分の1スケール再現された日本最大級の向羽黒山城の縮尺模型は見。その他、会津領主蘆名氏に関する資料展示や、津本郷焼の歴史も紹介しています。

開館日／  
4月中旬～11月の  
毎週土・日曜  
10:00～14:00  
＊その他観覧につい  
要問合せ

問／会津美里町観光協会 ☎0242-56-488



國重文 蘆名盛氏坐像  
【瑞雲山 宗英寺藏】



# 蘆名氏と向羽黒山城にまつわる会津の歴史

## 会津支配400年蘆名氏を語らずに会津は語れない

- |            |   |
|------------|---|
| 1189 文治5年  | 佐原十郎左衛門尉義連(葦名氏先祖)が源頼朝より会津四郡を賜る。   |
| 1354 文和3年  | 黒川小高木館を築く。小高木を後世小田垣に改める。  |
| 1379 康暦元年  | 蘆名7代直盛鎌倉より下向し幕内館(飯寺館か)に居住する。  |
| 1382 永徳2年  | 直盛、小館(西館)に移る。   |
| 1384 至徳元年  | 直盛、東黒川館(小高木館、後の黒川城・鶴ヶ城)へと移る。  |
| 1467 応仁元年  | 応仁の乱はじまる。蘆名氏13代盛高時代。  |
| 1521 大永元年  | 蘆名16代盛氏生まれる。蘆名14代盛滋没。   |
| 1537 天文6年  | 盛氏が伊達稙宗の娘を娶る。   |
| 1546 天文15年 | 画僧「雪村周繼」が蘆名盛氏に「画軸巻舒法」を授ける。  |
| 1553 天文22年 | 蘆名15代盛舜没。嫡子盛氏立つ。  |
| 1559 永禄2年  | 京都の知恩寺三十世住持峯州上人が、盛氏に従五位下修理大夫の綸旨と足利義輝將軍から授けられた屋形号を持って会津に下向。                      |
| 1560 永禄3年  | 蘆名家家老・金上盛備が正親町天皇と足利將軍に御礼言上のため上洛。  |
| 1561 永禄4年  | 盛氏の庶兄氏方が謀反、鎮圧される。<br>向羽黒山城築城開始、盛氏この年春より居住する。                                    |
| 1563 永禄6年  | 盛氏、甲斐の武田晴信(信玄)・相模の北条氏康らと対等の盟約を結ぶ。   |
| 1566 永禄9年  | 盛氏、盛興親子仙道(現在の福島県中通り地方)より凱旋する。   |
| 1568 永禄11年 | あしかけ8年をかけ向羽黒山城(岩崎城・巖館)が完成する。巨大な山城完成の祝いとして勝常寺の僧覚成が漢詩文「巖館銘」を詠む。                   |
| 1573 天正元年  | 盛氏は白河に出征し常陸の佐竹義重を破り、上杉謙信がその勝利を祝福する。   |
| 1574 天正2年  | 蘆名氏17代盛興没。父盛氏岩崎より黒川(若松)に帰り再び政を聴く。盛氏、須賀川の二階堂盛隆を養子とし故盛興の室に配する。                    |
| 1578 天正6年  | 上杉謙信没。上杉景勝と景虎の戦い(御館の乱)となり、盛氏は当初景虎側につくが、後に景勝に味方する。信濃守護小笠原長時会津に来て盛氏を頼る(盛氏の軍師となる)。 |
| 1580 天正8年  | 60歳で盛氏没。小田山にて戦国大名にふさわしい葬礼が執り行われる。   |
| 1589 天正17年 | 伊達政宗と「磨上原の合戦」で会津支配400年を誇る蘆名家が滅亡する。蘆名家20代義広常陸へ落ちる。後に兄佐竹氏の客将として秋田県角館を支配する。        |
| 1590 天正18年 | 伊達政宗、黒川にて正月行事を行う。三日には風雪をついで軍事訓練を向羽黒山城下で行う。<br>蒲生氏郷、会津・仙道の地に封ぜられ黒川城を賜る。          |
| 1590~1598  | 蒲生氏郷時代 向羽黒山城改修の痕跡が見られる。   |
| 1598~1601  | 上杉景勝時代 向羽黒山城改修の痕跡が見られる。   |
| 1601 慶長6年  | 上杉景勝が会津から米沢へ移封となり、向羽黒山城が破城となる。  |